

コロナの先の光を見つめて 広げよう地域活動の輪



鎌田地区
令和3年11月1日現在
総人口 19,769人
(前年比 +156人)
世帯数 9,220戸
発行者 鎌田地区公民館
公民館報編集委員会



合唱サークル「コーラスK」は9月まで活動を自粛。待ちわびた活動再開の日、感染対策の専用マスクをつけたメンバーの歌声が久しぶりに公民館に響きわたりました(10月7日)

昨年から続くコロナ禍の中で、鎌田地区公民館では感染対策を徹底しながら、新たな講座企画やサークル活動を展開してきました。感染の第5波が落ち着いた10月からは、公民館や福祉ひろばなどに以前の活気が戻りつつあります。

「明けない夜はない」。コロナの先に人と人とのつながりや支え合いの輪が広がる、明るく元気な鎌田地区であることを願って活動している様子をいくつか紹介します。



秋晴れの土曜日、児童センターの子どもたちが地元の文化財を学びながら区内をウォーキングしました(10月16日)

鎌田児童センターでは、第5波の影響で夏まつりが延期となり秋まつりを開催しました。子どもたちは楽しそうにミニゲームに挑戦しました(9月30日)



感染が落ち着いた10月、公民館や福祉ひろばの利用者、シルバー人材センター会員の皆さんに施設周辺の清掃をしていただきました



「歩かま」では参加人数をバス定員の半数に絞り、上高地に行きました。青空のもと、豊かな自然を満喫しました(10月8日)



例年盛大に開催していた地区文化祭は今年度も中止。代わりに地区公民館では、サークルの皆さんの活動成果を発表する場として「美術工芸作品展」を開催しました(11月8日～12日)

知りたい! 地域のあれこれ ①
地域づくりセンターってどんなところ?



このシリーズでは、地区の皆さんが暮らしの中で感じている「地域の疑問」にお答えします。第1回は地域づくりセンターについて、鎌田地区地域づくりセンター長の田中治さんに聞きました。

Q 地域づくりセンターはいつできたのですか?

A 松本市独自の地域づくり支援体制の拠点として、7年前(平成26年)に設置されました。

Q どこにありますか?

A 市内35地区に設置されていますが、センター単独

の建物はありません。鎌田地区は鎌田地区公民館に職員がいます。

Q 地域づくりセンターの役割は何ですか?

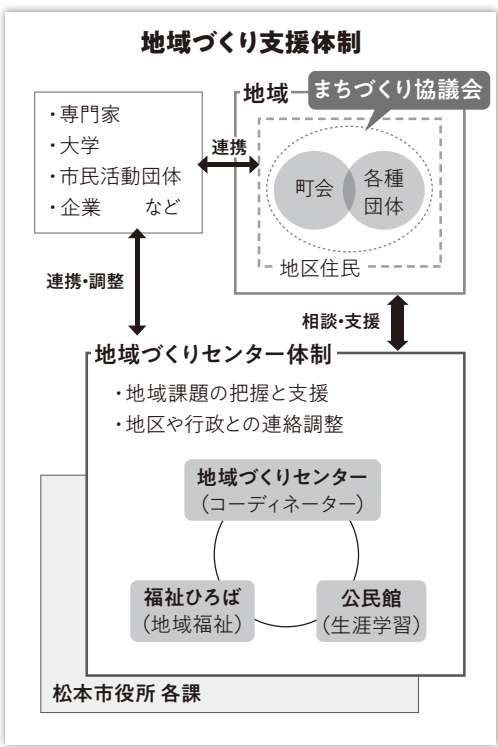
A 住みよい地域づくりの主要は住民の皆さんです。住民同士の連帯感や協働力の向上を図り、地域の課題解消に向けた活動を支えていくことがセンターの役割です。

Q どんなことをするのですか?

A 鎌田地区の皆さんの不安や困っていることを解消できるように一緒に考え、

様々な取り組みをお手伝いします。具体策として、町会や各種地区団体が集い、地域の課題を共有し解決に向けた議論を行う「鎌田地区まちづくり協議会」の設立を今年度予定しています。

◇「知りたい!地域のあれこれ」は今後も不定期のシリーズとして掲載していきます。知っているようで知らない地域のこと、疑問に思うことがありましたら、鎌田地区公民館(26・0206)までお寄せください。



鎌田中学吹奏楽部が全国大会で銀賞を受賞



演奏を終えた直後の部員たちの弾ける笑顔 (名古屋国際会議場: 10月23日)

10月に開かれた「第69回全日本吹奏楽コンクール」に鎌田中学校吹奏楽部が東海地区代表として出場し、銀賞を受賞しました。

今年はコロナ禍で全員での合同練習が制限される中、69人の部員が工夫しながら練習に励み、全国大会には3年ぶりの出場でした。

花壇コンクールで今年も鎌田地区から入賞



自宅前の道路沿いを彩る花壇 (両島7-3)

鎌田地区は町会や個人宅などで花づくりが盛んで、松本市の花いっぱい花壇コンクールでも団体賞や個人賞の入賞が続いています。11月9日に令和3年度の花壇コンクール表彰がありました。今年度は松本捷幸さん(両島)が個人の部で優秀賞に選ばれました。

雑感

前号で創刊200号の節目を迎えた鎌田地区公民館報。編集委員としてはそれなりに気合を入れて取材編集したつもりだが、いつもと同じように反応が少ないのはなぜだろうか。内容がつまらないからなのか、そもそも目に触れていないのか。もちろん読まれさえすれば良いというものではないが、読まれない記事は存在していないのと同じではなからうか。公民館報は不急ではあっても不要ではないと信じて今後も充実した紙面作りを心掛けたい。裏面の「キラリ☆かまだびと」は小学生から90代まで9人の撮影取材を担当した。どなたも強い意志を感じさせる瞳の輝きが印象的だった。前向きに生きる人々との出会いが今後も楽しみだ。▼表面のトップには全員がマスクをした集合写真を敢えて掲載した。コロナウイルス蔓延の年が200号記念の年だったという映像の記録が、何年後かに見る人々にどのような世の中になったか。そんな時代もあったねと笑って話せる世の中になってほしいし、来年こそは賑やかに新春を迎えたいものだ。(小林睦和)